

破壊的イノベーションの発生要因 ～QCAアプローチに基づく考察～

高橋 辰英

【要旨】

本論文は、形成された既存市場の秩序を乱し、業界構造を劇的に変化させてしまう破壊的イノベーションに着目する。この理論の中核は、未だに学術的な検証が不十分なまま世界中に浸透している。そこで、ファジイセット質的比較分析 (fsQCA) を用いて、破壊的イノベーションによって既存の業界・市場や企業が低いまたは高い残存率をもたらす要因の組み合わせについて明らかにし、破壊理論の実証研究から得られた内容を議論していくことを本論文の研究目的とする。

理論に用いられた事例を業界・市場と企業に分けて分析したところ、低い残存率と高い残存率をもたらす要因の組み合わせが明らかになり、破壊的イノベーションの成功と失敗をもたらす要因では因果の非対称性があることを明らかにした。QCAによる比較事例分析が経営理論の概念を検証する手法として有効性を示したことで、QCAを用いた経営理論の事例研究への発展が期待される。